

学位論文審査の結果の要旨

氏名	Mahmuda Hoque
審査委員	主査 糸原 義人 (印) 副査 宇佐見 晃一 (印) 副査 能美 誠 (印) 副査 古塚 秀夫 (印) 副査 内田 和義 (印)
題目	Role of Microcredit Organizations in Empowering Rural Women: A Grass Roots Level Analysis from Rural Bangladesh
審査結果の要旨 (2,000字以内)	
<p>近年、女性の権利拡大が女性の地位向上を決定する中心的な問題として認識されるようになってい る。こうした女性の権利拡大問題は、国レベル、また国際的レベルでもホットな話題として取り上げ られるようになってい る。過去30年、バングラデシュでも、社会的、経済的、政治的な平等思想にし たがって、女性の基本的人権、基礎的健康、基礎的教育など、女性の権利拡大への必要性が確実に人々 に認知されつつあるが、それでもなお、バングラデシュでは女性は最も恵まれない人々の部類に属し ている。バングラデシュの憲法では男女平等が保証されている。しかし、“性差別”は至る所、あらゆる レベルで存在し、特にこの“性差別”は農村で著しく、この“性差別”の主な原因は、女性が資金 やあらゆる生産資源に直接触れることができず、また出来たとしても不十分なこと、とりわけ、財政 的、社会的な側面での女性達の資金不足が、バングラデシュにおける農村女性の生活の質の面での改 善を遅らせ、家庭内で彼女達の権利、地位を低いものにしてしていることによる。</p> <p>本論文では、バングラデシュで創られた「マイクロクレジット」に焦点が当てられ、バングラデシ ュにおける女性の権利拡大に及ぼすマイクロクレジット組織の役割について分析、研究がされている。</p> <p>論文は9章からなり、第1章では、バングラデシュにおける女性の社会的地位、マイクロクレジ ットの歴史過程、マイクロクレジット組織の機能、及び問題の所在、研究目的、論文の全体像が描かれ ている。</p> <p>第2章では、女性の権利、地位向上の定義と、それに基づく、権利、地位向上プロセスに関する文 献紹介がされている。</p> <p>第3章では、調査地域とデータ収集、研究の基本的考えとその限界、研究方法、調査変数、そして 簡単にマイクロクレジット組織の紹介がされている。</p> <p>第4章では、女性の社会経済的特徴が紹介されている。</p> <p>第5章では、マイクロクレジット組織に参加している農村女性と参加していない農村女性の、家庭 における意思決定の役割、家計に占める所得の貢献度について分析がされている。</p> <p>第6章では、農村女性の家庭内における作物、家畜、そしてお金を扱う権利、そして農業技術取得 のしやすさ、作物、家畜情報、資金借り受けのしやすさについて述べられている。</p> <p>第7章では、農村における“性差”におけるマイクロクレジットの役割について分析がされている。</p> <p>第8章では、マイクロクレジットプログラムによる農村女性の権力、地位向上について分析がされ ている。</p>	

第9章では、第1章～8章までの総括がまとめとして述べられている。

以上の各章（特に、5章、6章、7章、8章）から得られた分析結果を示せば、次の通りである。

1. マイクロクレジット組織に参加している NGO women は経済活動への参加を高め、家庭での意思決定に多く関わることで、女性の権利拡大・改善を促している。したがって、マイクロクレジット組織は、農村女性の経済活動への参加意欲を高めるだけでなく、家庭での女性の意思反映に重要な役割を担っている。
2. 農村女性の“性差”に関する認識は低い。しかし、マイクロクレジット組織に積極的に関わっている女性達の“性差”に対する認識は深く、相対的にマイクロクレジット組織に関わらない Non-NGO women よりも“性差”に関して、よく理解されている。このことは、マイクロクレジットプログラムはバングラデシュにおける農村女性の“性差”に対する認識を深める働きを示していると考えられることができる。
3. 積極的にマイクロクレジットプログラムに関わっている NGO women は、マイクロクレジット組織に関わらない Non-NGO women よりも権利拡大の動きは大きく、マイクロクレジット組織におけるマイクロクレジットプログラムは、バングラデシュにおける農村女性の権利を拡大するというインパクトを持っている。長期間マイクロクレジットに関わり、自分自身で借りたお金を運用し、成果をあげている NGO women の権利、家庭での地位は高い。
4. 女性の権利拡大に重要な意味を持つ因子は“組織への参加”であるが、マイクロクレジット組織は、女性の貧困層にのみを対象にしている（特に、土地なし、小規模農家の女性達）。しかし、大・中規模階層の農家の女性達は、地位を向上させ、自己実現を助長するようなタイプの組織へ参加することができず、権利拡大の恩恵にあずかっていない。

したがって、以上の結論を総合すれば、農村女性全体の地位向上を目指す場合、マイクロクレジットプログラムは、小農女性、貧しい女性のみ限定されるべきでない。持続的な農村発展のためには、女性に権利を与え、女性の能力が発揮できるように、女性の経済的、社会的地位を高めることが求められるが、そのためには、マイクロクレジットプログラムは農村女性のあらゆる分野に広げられる必要がある。

以上、本論文はバングラデシュ農村の農村女性の権利拡大、地位向上に果たす「マイクロクレジット」の役割について草の根的なデータ収集、調査、研究から生み出されたもので、その研究価値は高い。分析結果から、農村女性の権利拡大、地位向上に果たす「マイクロクレジット」の役割は大きく、逆にマイクロクレジットが支援対象にしていない大・中規模階層の農家の女性達は相対的に権利拡大、地位向上の恩恵にあずかっていないことが明らかになった。

マイクロクレジットがバングラデシュ農村で、農村女性の権利拡大、地位向上を進める上で大きな役割を担うことが明らかになり、この成果は、今後性差改善に向けての農村女性の権利拡大、地位向上を進める上で極めて有用な知見として高く評価されるものであり、本論文を学位論文として十分な価値を有するものとして判定した。